

アメリカ発



最新歯科医療レポート

Vol.10 リポーター：和田圭祐

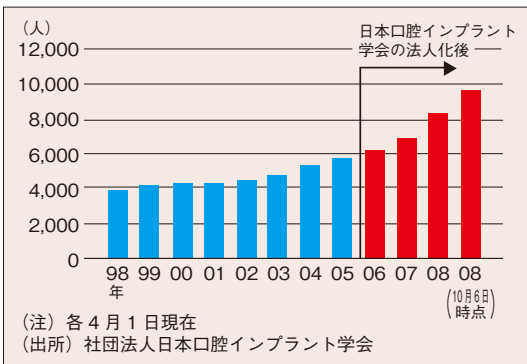


和田圭祐=1970年5月9日生まれ。広島大学歯学部卒。名古屋大学医学部大学院で医学博士号を取得後、米国ハーバード大学大学院で歯学博士号取得。米国歯周病専門医。米国歯周病学会(AAP)認定医。現在ペンシルベニア大学歯学部でインプラント学ディレクターとして教鞭をとる傍ら、インプラント学術誌において世界最高峰といわれるJOMI誌の編集委員を務める。医療法人東陽会和田歯科医院非常勤歯科医師(2ヶ月ごとに帰院)

米国での最新のガイドライン

インプラント治療での死亡事故やインプラントの使い回しが、日本で一時大きな話題となりました。米国では、インプラント治療は安全で有効な治療として日常的に行われていますが、その人気故に安易に施術され、失敗や訴訟に至るケースも増えてきています。あらかじめ十分な精査をせず、治療の基本であるガイドラインが無視されていることが原因です。

昨年米国インプラント学会(AO)での最新データをまとめた報告書(JOMI誌)から、同治療のリスクの一部を紹介すると
・骨がやせている、薄い
・強い歯ぎしりがあったり、かみ合わせが難しい
・体に大きな持病を抱えている
・ヘビースモーカー



資料1. 日本口腔インプラント学会会員数の推移
2009年ついに会員数が一万人を超えて日本歯科医学会で最大の学会となった。最近の歯科医師のインプラント治療への急激な関心の高さを浮き彫りにしている。(東洋経済 Onlineの記事より抜粋)



日本における正しいインプラント治療の確立

・重度の歯周病
・骨粗鬆症などで点滴や薬などの処方を受けたことがある
・顎の骨に放射線療法を行ったことがある
など7点があげられています。さらに重度の歯周病でヘビースモーカー

す。
このように、これらのリスク項目に当てはまるものが多ければ多いほどインプラント治療の成功は難しくなり、長期的には他の治療という選択肢を考えたほうが良い場合が多くなります。

ガイドラインに沿った安全なインプラント治療

現タイプのインプラントは、40年以上たった今でも正常に機能しています。訴訟社会の米国では安全で長期的な成功を絶対条件として、ガイドラインに沿った正しい方法で同治療をすることが徹底されています。

日本に於けるインプラント治療は安易にとらえられすぎであり、また少々沸騰気味の感があります。歯科治療全体から考えると、治療のオプションにしか過ぎません。インプラント治療は素晴らしい治療法の1つではありますが、前述したように、正しい方法でガイドラインに沿った治療を確立しなければならぬと思います。

WADA DENTAL OFFICE

新市・和田歯科医院

院長 和田 勝 / アメリカ歯周病専門医 和田 圭祐
アメリカ歯周病学会認定医

福山市新市町新市726-1 (ムシバゼロ)

— M&K インプラントオフィス福山 — **Tel. 0847-52-6480**

詳しくは当院のインプラント専用サイトをご覧ください <http://www.wada-implant.net/>